

個人植樹とは

個人の心の成長を第一に考えた植樹行事です。

①自分で選ぶ

②自分で植える

③20年後の自分の木から手元に残るものを作る

参加者は「自分の木」を育て、その木から手元に残るものを作れます。

◆個人植樹が広まることで得られるものと目的について。

1. 個人のメリット

2. 自然環境へのメリット

3. 社会的・経済メリット

4. 地域と法人のメリット

5. 日本と世界各国のメリット

この五つについて説明します。

1 個人の楽しみとは？

・人生で一人一本「自分の木」を持ち、共に成長する楽しみを提供します

⇒人生で大事な選択の時や人目が気になり判断を迷う時など「自分の木」に会いに来ることで原点に立ち返り個人の心を思い出せるように。(①の自分で選び、決める理由)

⇒20年後は枝から手元に残るものを作ります。(ペンやお守りなど)

・家族三世代全員が一緒に楽しめるイベント行事となります。

⇒100年後はひ孫の新築する家の柱として命を守ります。(その他公共施設の柱材として利用します)

◆個人植樹は新しい年中行事として以下の目的を盛り込んでいます。(順番に意味はありません)

1.自分の使う酸素・二酸化炭素の分。地球人の責任として。

2.枯れても自然のこととして受止め、失敗からは大きく学ぶという考え方と体験。

3.その場限りではなく環境に対して関心を持たせ続けられます

4.木の成長のスピードを知る

5.目先ではなく長期の楽しみも考えること

6.花粉症の根本原因の解決

7.花粉症の薬を飲み続けさせないように

8.動物のようにエサ(ヒトにとってのお金)でしか動くことのできない者にとっては心の訓練となり、自信に繋がります

9.«意味や目的を理解せずにただやる場合」との比較で“意味づけの大切さ”を実感できる

10.«やらない言い訳」より、「やる意味や価値を探すこと」ができるようになる。行動力の向上。

11.自分で「本当にできること」と「できないこと(やらないこと)」を自覚できる

12.一方的な森林開発だけでなく、今後それに対するリカバリーの意識と、これが容易ではないことも学べるように

13.これまでのように自然環境への理解と関心が「教科書からのイメージだけ」ではなくなり、経済活動と自然環境の繋がりのイメージが実感しやすくなる

14.宗教儀礼ではない為、誰もが参加可能な年中行事となります

「やってみたい」と思えば、「どの子でもできる年中行事」とする為、0円からの料金設定。

15.いずれは完全報酬制度を取り入れる予定の行事です

…

2 自然環境へのメリット

・日々悪化していく放置人工林に対し、手入れの資金や人力を増やせます

・里山・商業林としては成り立たない部分を野生動物の住める自然林に戻します

・山の多様性と日本の野山の美しい四季の景観を取り戻します

・水源の森を守ること

・豪雨による土砂災害の危険性が高まっている部分への対策

・沿岸部の漁場、海の生態系を守ることに繋がります

・子供達が将来どんな職に就いたとしても開発と同時に自然環境も考えられるようになります

3 社会と経済へのメリット

・新しい市場ができます

・地域の子どもたちが個人植樹をする山が、自分達の定年後の活動の場にもなります

・放置山林の整備にシルバー雇用の創出

・低額年金者の生活の補助となる報酬を出せます

・誰もが入れる公山をつくり、この山の手入れや整備に参加することで各種のリターンがあります

・その山の林道整備の資金調達が可能

・「自分の木=特別な木」ということで、使い方にも色々なアイデアで新たな文化と商品が生まれてきます。

(例えば木造建築の歴史の中で「床柱」が生まれてきたように)この木は「ひ孫の新築する建材」としても新しい素材になります

・個人植樹は社会的に繋がり(利益)の弱い部分を繋げます

1. 都会とローカルを繋ぐ(利益)

2. ひ孫との繋がり(木材利用)

3. 地域の子どもと高齢者施設(旅行中の水やりの依頼アプリ)

障がい者と健常者(苗木)

・ゾーニングによる里山の整備がなされていきます。農作物の被害が減少、対策費用減にも繋がります。

・全員微力参加型社会問題解決のモデルケースとして後世に。

4 地域やみどりに関連する事業者に対して

◆営利法人

・山林とみどりを扱う者が増えます。

・植木生産者の取扱い樹種と利益が増えます

・一般の方たちが樹木(樹種)を知ることで木材需要にも繋がります。

■非営利法人

・地域の NPO が中心となり 65~75 歳の元気な方が地域の山林でセミプロとして活躍できるように育成指導してください。

・セミプロとしてボランティアに参加して頂ければ、これまでのボランティア活動には支給されなかった交通費・お弁当・飲み物代は我々から支給させていただく予定です。

5 日本としての世界各国へ発信したいもの

・日本では水資源や森林資源が豊富です。「だからこそ大切にする」というのも個人植樹なのです。この考え方も価値観を日本から世界へ。(無くなって困ってからやるのでは行事で

はなく対策です)

・国民共通の話題を持てる

・個人植樹は世界のどこでもできる世界共通の人生行事として広がります。

◆まとめ

「みんながやるからアナタもやりましょう。」と言ってやらせると、みんなの動きを真似ているだけです。

これではみんながやめたら? ..やめてしまうでしょう。

「自分だけでもした方が良いというその重要性」を理解していないと自発的には続きません。

何事に於いても、やる意味を「個人が理解した上で」更にそれを「自分がやりたい」って思わなければ楽しくないのです。(「企業がまとめてやってくれているからそれでいい」と思うアナタならその企業への支援を進んでしているとは思いますが..)

国や企業がまとめて植樹することにお金を払って強制的に参加させられているとかじゃ...「同じ」でも“違う”。

個人植樹から学んでほしいのは、どうせやるなら、又どうせやられるのであれば、そこに理解を深めて、解釈や捉え方を変えて自発的に楽しむことができれば良く、その経験から人の心は本当の意味で大きく成長していくことができるというもの。

本当の意味で成長した人間は「良いと思うこと」を自発的にできるようになるものと信じております。

それが個人として「一人一本“自分の木”を植える」ということ。

みんながやるからやるのではなく..

僕たち人類が地球上で個の人生を楽しむ為に必要最低限の酸素のための責任と意識の表明。それが個人植樹です。



私たちは
植樹用地を探しています
協力者を求めています
活動資金を募っています



そして個人植樹を広めていきます
一所懸命に頑張ります!



※その地域の子供達の個人植樹用地となる山林を提供して下さる方、また、山林の購入資金を寄付して下さった方のお名前などをその森に付けさせていただきます。



代表 草野 修一
shuichikusano@gmail.com

090-6589-7439

お力をお貸しください。